

## 4-8 バーレーン

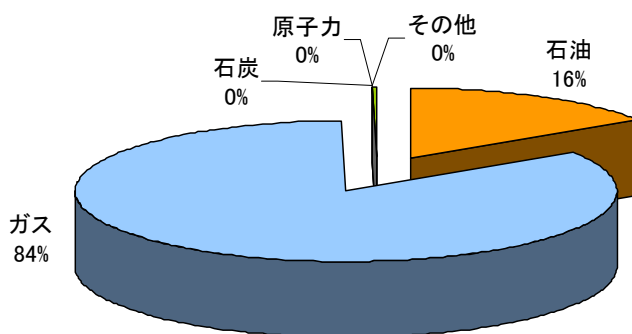
### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

1931 年に油田が発見され、石油の歴史に名を残すバーレーンではあるが、自国の原油生産は減退傾向にある。サウジアラビアの Saudi Aramco が操業する Abu Safah 油田からの取り分原油と BAPCO が操業する製油所から出てくる石油製品の輸出で石油産業は成り立っている。ガスの可採年数も 6.7 年で輸入計画もある。

- (1) 一次エネルギー供給量：石油換算 923 万トン(日本の 1.9%)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量：石油換算 12.03 トン/人(同 310%)
- (3) エネルギー自給率：189%(純輸出国)
- (4) エネルギー起源 CO2 排出量：二酸化炭素 2,130 万トン(同 1.7%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO2 排出量：二酸化炭素 28.02 トン/人(同 2.9 倍)
- (6) エネルギー源別可採年数(2009 年末)：原油 26.8 年、天然ガス 6.7 年

一次エネルギー供給構成 (2008 年)



(出所) IEA, Energy Balance of Non-OECD Countries 2010

#### 2. エネルギー政策のポイント

##### (1) エネルギー政策担当機関

National Oil and Gas Authority (NOGA: 国家石油・ガス庁) が石油とガス両セクターの全責任を担っている。NOGA の議長は現在 Mirza 石油ガス大臣が務めている。石油とガスの統括会社が 10 億 BD (Bahrain Dinar) の資本で設立されているが、その傘下に以下 5 つの会社がある。

- Bahrain Petroleum Company (BAPCO) : 100% 国営
- Bahrain Natural Gas Company (BANAGAS) : 75% 国が保有
- Banagas Project Expansion Company : 100% 国営

- Bahrain Aviation Fuelling Company (BAFCO) : 60%国が保有
- Gulf Petrochemical Industries Company (GPIC) : 33%国が保有

(2) 基本政策

自国のエネルギー資源は限られているので、サウジアラビアとの関係を保持して原油供給を受けながら、カタール等からのガスの輸入も視野に入れて将来計画を練っている。

(3) 最近の動向

2009 年 2 月 R/DShell はバーレーンとの間で、同国に対するガス輸入枠組み作りを共同で実施してゆくことで合意した。R/DShell は併せてバーレーン国内でのガス開発についてもスタディを行うことになっている。

### 3. 日本とのエネルギー分野における関係

2009 年のバーレーンからの石油製品の日本への輸入はナフサのみで、数量は 1,278,921kl であった。これは、日本のナフサ総輸入量の 4.9%に相当する。

## 2. 主要エネルギー指標

(2007 年)

(1)	一次エネルギー供給量	9.226	石油換算百万トン
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	1.91	石油換算トン/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.71	石油換算トン/千ドル
(4)	エネルギー自給率	189	%
(5)	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	21.30	二酸化炭素百万トン
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	28.02	二酸化炭素トン/人
(7)	エネルギー源別構成率		
	石炭	0	%
	石油	15.8	%
	ガス	84.2	%
	原子力	0	%
	水力	0	%
	再生可能エネルギー等	0	%
(8)	エネルギーの輸入依存度	0	%
(9)	石油の輸入依存度	0	%
(10)	輸入原油の中東依存度	-	%
(11)	原油輸入先	第 1 位	-
		第 2 位	-
		第 3 位	-

(出所) (1)~(4) および (7)~(9) は IEA-「Energy Balances of Non-OECD Countries」2010 Edition、  
(5)~(6) は IEA-「CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion」2010 Edition